

## 募 集 要 項

氏 名：宮永 健太郎	研究室：第 4 研究室棟 207 号室
専攻分野：ソーシャル・ガバナンス論	
演習テーマ：持続可能な発展とソーシャル・ガバナンス	E-mail：miyanaga@cc.kyoto-su.ac.jp

### 演習内容・主なテキスト

環境問題や社会問題が各地で深刻化する中、**SDGs（持続可能な開発目標）**への関心が高まっています。プラスチックごみや二酸化炭素を大量に排出したり、従業員にサービス残業を平然と押し付けたりするような企業は、市場からも人々からも見放され、この先存続できなくなります。環境問題や社会問題を引き起こさずに企業をどう存続させ、利益を生み出すのか？——企業のマネジメントにたずさわる人々は今、皆この問いに直面しています。

そして SDGs の普及にともない、政府による環境問題・社会問題への取り組みにも変化が起きつつありますし、NPO・NGO のような組織の活動にも注目が集まっています。こうした状況で登場したのが、「社会思考のマネジメント」とか「ソーシャル・ガバナンス」とか呼ばれている考え方です。

宮永ゼミのテーマは「**持続可能な発展とソーシャル・ガバナンス**」です。そして宮永ゼミは、**環境問題**や**社会問題**の解決に関心がある学生を歓迎します。SDGs のベースになっている「持続可能な発展（Sustainable Development）」とは、いったいどんな概念なのか？ 企業、政府、NPO・NGO がどのように行動し、連携すれば、持続可能な発展が実現できるのか？ SDGs の取り組みを真に意味あるものにするには、何が必要なのか？



だけでも持続可能な発展が実現できるのか？……こうした問題を、みんなで考えていきましょう。

「徒弟制」でも「自由放任制」でもない「**共育制**」（教える側と教えられる側が共に学び共に育つ）が、宮永ゼミの基本コンセプトです。そして、不透明でタフな時代を生き抜くのに必要な「**個の力**」（自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の術（わざ・すべ）で答えを出し、自分の言葉で他者に説明する力）を鍛えるというのが、宮永ゼミの基本ポリシーです。



### ＜演習1＞・＜演習2＞

「社会なくして個人なし」。個の力を伸ばすといっても、周囲とのコミュニケーションや世の中との関わり方の質が高まらない限り、個の成長は望めません。一人でひたすら筋トレやリフティングばかりしていても、いいサッカー選手になれないのと同じです。

そこでまずみなさんには、**グループワーク型タスクを通じて、読む力・書く力・話す力・**



**聴く力を高めてもらいます。**具体的には、コミュニケーション能力やディスカッション能力の向上を目的とした各種グループワークを実施するほか、環境問題や社会問題に関するデータ分析・加工の基礎的なトレーニング (Excel) も行うなど、データ思考を磨く機会も設けます (左写真)。

加えて、ゼミ 4 回生の先輩から就活の体験談を聞く**就活交流会**、ゼミでの学習や卒業後の進路について教員と一対一で意見交換する**個人面談**も実施し、ゼミでの学びが今後の人生

にどう繋がるのかを体感してもらいます。

### <演習3>・<演習4>

「成長できる人間とは、良い問いを立てられる人間である」。周囲の状況や世の中の問題を“自分の課題”にうまく落とし込めれば、自らが考えるべきこと／なすべきことが明確になり、成長に向けた道筋も自ずと浮かび上がってきます。

と同時に、それは実りある人生にもつながります。自分の課題や成長後の自分像というのは、人によってまったく異なります。その事実から目を背け、同じ目標を一律に外から与える組織 (社会) では、人々は自分で考える力を奪われ、違和感とともに鬱々とした日々を過ごすこととなります。そして将来、全く同じ状態を今度は他者に押し付ける側に回ることでしょう。展望なき“御恩と奉公”の悲しい無限ループ。場の空気を読んでうまく立ち回ったり、既存のムラ秩序に溶け込んだりすることばかりが重宝され、それが“コミュニケーション”と呼ばれてしまう悲しい組織 (社会)・・・

そこでみなさんには、「自分 (たち) で問いを立て、その問いに答えを出す」学びを実践してもらいます (右写真)。具体的には、**ゼミ生をいくつかのチームに分け、チームごとに自分たちでテーマを決めて研究し、青山学院大学他とのインゼミ (合同ゼミ) で報告してもらいます** (右 QR コード参照)。ちなみに 2022 年度は、「スポーツツーリズム」「サステイナブルフード」「ディ



ーセントワーク」「脱プラスチック」「サステイナブルファッション」の計 5 チームが報告しました。そして 2023 年度は、「水ビジネス」「自動運転技術と交通弱者対策」「サステイナブルファッション」「サテライトオフィスと地方の若者雇用」「未利用魚フードロス対策」の計 5 チームが活動しています。

といっても、自分にそんな学びができるのか、不安な学生も多いことでしょう。しかしここで、ゼミの基本コンセプト「共育制」の出番です。私は、時に寄り添いながら、そして時に遠くから見守りながら、そのプロセスをサポートします。「講義ではティーチング (teaching)」「ゼミではコーチング (coaching)」というのが、私の教育スタイルになります。正しい努力を正しいプロセスで積み重ねていけば、人はみな必ず成長できます。学びはスポーツや文化系活動と非常に似ているのです。



### <演習5・6>

「私はまだ学んでいる (Ancora imparo)」。あらゆるものが急速に変化する今の時代、人は常に学び続けなければなりません。その方法をじっくり習得する機会を得られるのは、大学生に与えられた貴重な特権です。

こういう有名な格言があります——飢えている人にとって本当に必要なのは、魚を与えることではなく、魚の釣り方を教わることである——。与えられた魚は食べると無くなってしまいますが、魚の釣り方を知っていれば一生食べていけるからです。一人一人が「学び方を学ぶ」ための千載一遇のチャンス、それが卒業論文の執筆なのです。

**宮永ゼミの最終目標はただ一つ。「ゼミ生全員が卒業論文を書くこと」です。**<演習 1>～<演習 4>は、その全てが卒業論文に向けた準備なのだと考えてください。もし就職活動



で「大学で何を学んでいますか？」と聞かれたら、そして社会に出たあと「大学で何を学びましたか？」と聞かれたら、澁（よど）み無くこう答えましょう。「ゼミで〇〇〇について卒業論文を書きます／書きました」。それはあなただけの、オンリーワンの答えになるはずです。

なお宮永ゼミでは、卒業論文集（『Governance for a Better World』）を毎年制作し、ゼミの卒業生全員に1冊ずつ手渡しています（左写真）。同論文集は、大学図書館2階の教員文庫コーナーにも置いてありますので、興味ある人は一度手にとってご覧ください。

## 教員からの要望

1. 教員がゼミ生に求めているのは、環境問題や社会問題への関心もさることながら、それ以上に、ゼミ活動に対する「**自発性**」と「**モチベーション**」が重要です。教員に言われるがまま、与えられるタスクさえこなしていれば、就活でアピールする勉強面の“ガクチカ”（学生時代に力を入れたこと）はひとまず手に入るだろう——そんな了見の学生にとって、宮永ゼミはたぶん楽しくないゼミなので、入らない方がいいです。そしてそんな人には、ゼミなどに入らず、インターンやアルバイト、部活をひたすらやり倒すタイプのガクチカ追求をお勧めいたします。宮永ゼミがゼミ生に与えるのは、ガクチカそのものではなく、ガクチカを得るための「自由な学びの場」、そしてその場を使いこなす「術（わざ・すべ）の習得の機会」に過ぎません（「個の力」を鍛える！）。そして、**宮永ゼミで得られるガクチカとは、「ゼミにしっかり向き合い、仲間や教員と積極的に交流するうちに、気づいたら自然と手に入っていた」というようなタイプのものです。**そういうゼミ生活を思い描いている学生を、宮永ゼミは歓迎します。

2. 逆に、やりたいこと・学びたいことが明確で、自らのイニシアティブで発動できるタイプの学生にとっては、宮永ゼミはとても居心地がいいはず。そして教員は、**そんな学生を積極的にサポートし、ゼミ生が抱えている夢をカタチにするためのお手伝いをします。**例えば、前年度から今年度にかけて、宮永ゼミの有志メンバーが「=Scafe（エスカフェ）」という**ゼミスピンオフ企画**を実施しました（右写真・QRコード）。二酸化炭素を出さないカーボンニュートラルコーヒーを提供するカフェを学内で出店し、京産大生の環境意識を高めてもらうという趣旨の企画だったのですが、おかげさまで各方面からご好評をいただいたようです。「やる気スイッチはもう入っている」「でも、そのやる気エネルギーをどこにどう向けたらいいのかわからない」という学生を、宮永ゼミは歓迎します。



3. つまり、**負荷がかかるのを嫌がり、成長するチャンスから逃げ回るタイプの人は、宮永ゼミ向きではありません。**例えば「目先の損得勘定でしか動かない」「様子見癖が直らず主体性がない」「人見知りや“コミュ障”といった言い訳にすぐ逃げ込む」等々。そんな人は、セレンディピティ（予期せぬ幸運を掴み取る力）も遠ざかるばかりです。

4. **ノートパソコンを必携とします。**これからみなさんが生きていく第四次産業革命の時代、パソコンがある程度使いこなせるのは当然のことと見なされます。ゼミ活動を通じてその力を高めましょう。

5. **ゼミの無断遅刻・無断欠席は厳禁**であり、違反したゼミ生は、残念ながらその時点で落単（ゼミリタイア）となります。ご注意ください。





宮永ゼミを希望する学生は、WEB 申込様式の 1. ～ 6. の質問項目の他に、**下記「宮永ゼミ独自質問項目」(①～③)への回答を、それぞれ 150 字程度で、「その他」の欄に記入してください。**本ゼミに対する応募者の適性を判断する材料にします。

#### **「宮永ゼミ独自質問項目」**

- ① この募集要項を読んで、一番印象に残ったことと、その理由
- ② マネジメント・リテラシー I (春学期) で学んだ諸内容のうち、一番興味を持ったテーマと、その理由
- ③ みなさんの今までの人生の中で、一番思い出深い出来事 (経験) と、その理由

#### 教員の自己紹介



#### ゼミ生からの紹介

##### □ 横尾 (7 期生ゼミ長)

1 回生のみなさん、宮永ゼミに入ってみませんか！？

宮永ゼミではグループワークと発表を中心に授業が進みます。当初は上手くいかないことがあるかもしれませんが。しかし毎週会う仲間と回を重ねるごとに、コミュニケーション能力・プレゼン能力を高め合うことができます。

また学外ではバーベキューなど行事も活発に行っています。マネリテの講義では見られない先生の一面が見られるかも？

みなさんの応募をお待ちしています。

##### □ 沈 (6 期生ゼミ長)

宮永ゼミは、コミュニケーションを取る事を大事にしています。グループワーク主体のゼミであり、コミュニケーションを通じて自身の能力を楽しく伸ばす事が出来ます。また授業外でも BBQ や食事会など様々なイベントがあり、ゼミ生同士が仲良くなる機会も沢山あります。人と関わる事が好きな人、楽しく自身の能力を伸ばしたい人にはとても充実したゼミになると思います。 宮永ゼミ生一同、皆さんをお待ちしています！

##### □ 小川 (5 期生ゼミ長)

4 回生は現在卒業論文の執筆を行なっています。経営学に捉われず自分が研究したい内容を卒業論文にかけることが宮永ゼミの魅力です！

経営学をはみ出しているような研究をしたいという方にとてもおすすめのゼミです！ 研究内容が定まらないという人も安心してください。我ら宮永ゼミの教授、宮永健太郎先生が親身になって相談に乗ってくれます。ゼミ合宿やインゼミという他大学との交流の場もあるので是非宮永ゼミに入って一緒に楽しみましょう！ お待ちしております！